

# しんち 議会だより

2018・4・20  
No. 157



## 未来へ

4 / 6 福田小学校入学式

### 〈3月定例会〉

- 定例議会の概要 ..... 2～9
- 町政を問う ..... 10～16
- 常任委員会レポート .. 17～18
- 傍聴 ..... 19
- ようこそ新地町へ ..... 20

3月  
定例会

3月定例会の  
あらまし

# 予算審査特別委員会設置

平成30年第2回定例会は、3月2日から16日までの15日間の会期で開催され、町長から提出された人事案件や街路灯及び防犯灯整備基金条例等の制定や、国民健康保険条例等の改正、一般会計・

特別会計補正予算・当初予算など、27議案を審査し、原案のとおり可決した。また、14日・15日には6名の議員が一般質問を行った。

前年度比23.1%増

# 上げへ

特別会計含め

159億5276万円

前年度比 16.9%増

議会では予算の重要性を鑑み、慎重に質疑を行うため、予算審査特別委員会を設置している。  
今回の3月定例会では、委員長に目黒静雄氏、副委員長八巻秀行氏を選出し、予算審査を行った。

### 若者定住、子育て支援 雇用創出一体で

平成30年度一般会計予算は、前年度対比23.1%増で135億円の大型予算編成となっている。  
町長の施政方針で、新地町第5次総合計画、復興計画、地方創生総合戦略の具現化を目指し、主要プロジェクトに取り組みとしている。

新たな新地駅周辺への交通人口の増大を図るため、新地駅周辺市街地復興整備事業などにより、交流センター、複合商業施設などを整備、さらに、先導的な取り組みとして、エネルギーの地産地消や省エネを目的に「スマートコミュニティ事業」を推進するとしている。

また、引き続き、防災緑地整備や、新たな駒ヶ嶺公民館の土地造成、町道改良工事や避難道路整備を実施、また、これまでも実施してきた若者定住対策や子育て支援、さらに、企業誘致を図り、産業の振興と雇用の創出に取り組むとしている。

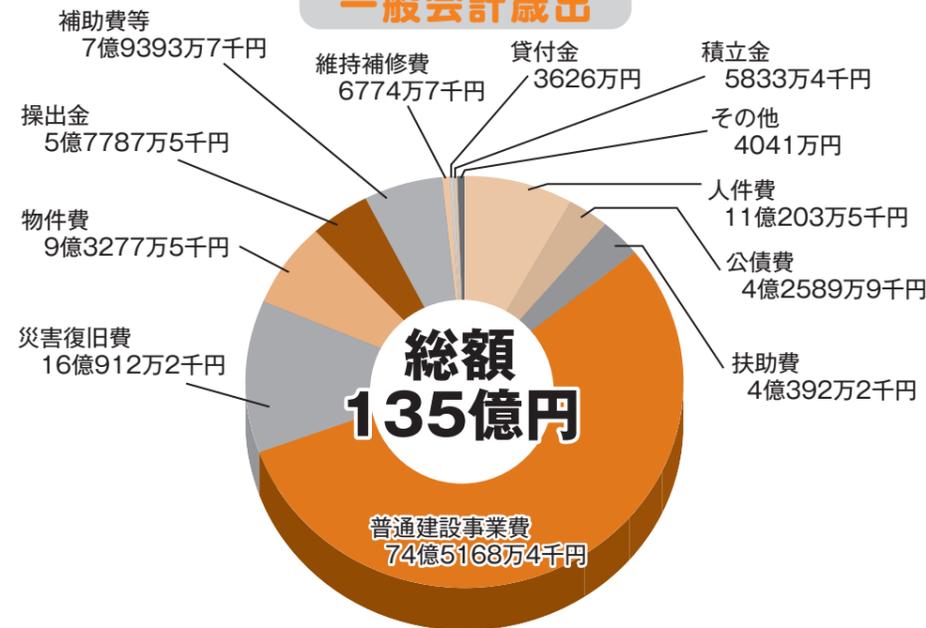
議会では、予算審査特別委員会各課より詳細な説明を受けて徹底した議論を重ね、慎重に審査した。  
本特別委員会に付託された平成30年度一般会計予算

や国民健康保険特別会計予算など7つの特別会計予算審査の結果、次の通り、意見を付けて原案のとおり可決すべきものと決定した。

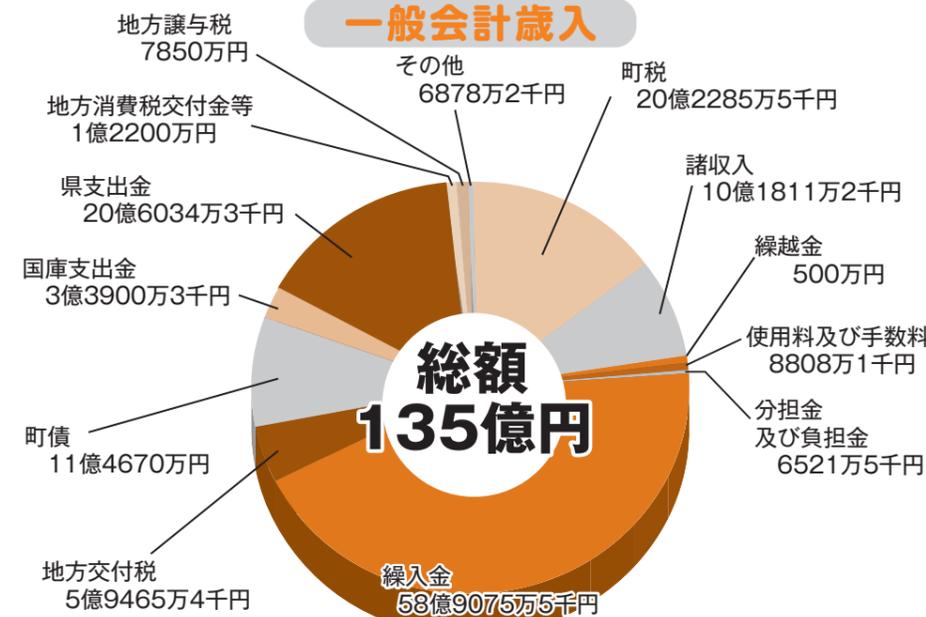


▲釣師防災緑地植樹祭

## 一般会計歳出



## 一般会計歳入



### 議会の意見

## 迅速な執行と 行財政改革を

平成30年度予算は、将来の展望と方向性を示す「新地町第5次総合計画後期

基本計画」及び国の「復興・創生期間」3年目の予算であると共に、人口減少対策や地方創生策を具現化する大事な予算である。一般会計は135億円、特別会計を含む予算規模は159億5276万2千円の対前年度比23億938万

6千円増となっている。更に、20件で約9億円の事業が繰り越されており、結果として一般会計は、実質約144億円規模となっている。復興事業の総仕上げのためにも予算の確実な執行を図りたい。

○歳入  
・新たな事業や制度の情報収集に努め、更なる財源の確保と財政計画を立てたい。  
○歳出  
・地域エネルギー事業を含む新地駅前整備事業や防災緑地整備事業は、町の将来を決める大事業でありスピード感ある事業執行に努められたい。  
・保育事業は町の目玉であるので、待機児童を発生させない取り組みを進められたい。



▲予算審査特別委員会

### 会計別当初予算額

会計別	平成30年度	平成29年度	比較
一般会計	13,500,000	10,970,000	2,530,000
国民健康保険	1,010,000	1,301,895	△291,895
介護保険	927,169	883,110	44,059
後期高齢者医療	167,653	156,982	10,671
公共下水道事業	239,500	236,188	3,312
農業集落排水	53,900	50,515	3,385
新地南工業団地整備	54,540	44,686	9,854

・基幹産業の農・漁業振興を基本に、将来を見据えた取り組みをされたい。  
平成30年度国民健康保険特別会計予算  
・国民健康保険の広域化が始まるが、予防医療の充実を図り、国保税の軽減に努められたい。  
平成30年度介護保険特別会計予算  
・高齢者の状況を考慮して負担軽減を図られたい。  
平成30年度公共下水道事業特別会計予算及び農業集落排水事業特別会計予算  
・接続率の向上を図るとともに、既存施設の長寿命化につながる維持管理体制に努められたい。  
平成30年度新地南工業団地整備事業特別会計予算  
・事業精査を図ると共に、積極的な企業誘致活動と早期の雇用の確保に努められたい。

## 予算審査特別委員会 こんな質問が



Q 30年度は、人事評価制度を導入して3年目となる。目標と課題を伺う。

A 今後、人事、給与に関して反映するようにという指導が国からも入っている。時期が確定しているわけではないが、いずれは反映していかざるを得ないと思っている。そのためにも今時点で、担当課長によって評価の違いが出てくることのないよう、30年度は統一化を徹底したい。

Q 職員退職手当組合負担金は7千万も減しているが理由は何か。  
A 職員退職手当組合負担金の減と精査の結果である。

Q 地域おこし協力隊3名の新規採用は、首都圏からの若者を想定しているが、既に転入されている町民でもないのではないのか。  
A 町外の新たな発想と機動力を持つ人材を受け入れたい。隊員の定住移住の促進と、より魅力の高いまちづくりを進めたい。

Q 技術者の不足している課の機構改革を進める考えは。  
A 技術者のいない課（企画振興課、教育総務課等）の事業は都市計画課に集中している。派遣職員がいるのでまわっているが機構改革は今年度で検討し来年度に実施する。

Q 被災住宅再建支援事業の28戸の再建を考えているが、町長の行政報告では10戸となっている。どうして違うのか。  
A 災害公営住宅等への入居は町内では10戸である

Q 毎年木造住宅耐震改修助成金100万円を計上しているがこれまでの実績は。  
A これまでの実績はない。

Q 福田地区における人口増加策として宅地分譲するたため、測量調査設計費を計上したが取得するための測量か。  
A 60坪の用地を取得するが用地は土地開発基金で購入し、分譲地造成のための測量である。

Q 釣師防災緑地内に整備される計画のオートキャンプ場の進捗状況は。  
A オートキャンプ場は現在発注工事の中で進めている。

Q 法人町民税の増加の要因は何か。  
A 前年は163社だったが183社を見込み、石油資源開発(株)は7号法人(41万円)から9号法人(300万円)になっ

が、他に町外へ避難されている世帯18戸の未再建世帯がある。

Q 介護保険特別会計で要支援1、2の方の予防サービス給付費が半減している。なぜか。  
A 要支援1、2の方のサービスは、昨年からの介護予防・介護予防生活支援総合事業への移行により、従来の予防給付から地域支援事業に変更されたためである。

Q イノシン焼却費は560万円となっているが積算根拠は。  
A 230頭/年×700円/kg×35kg/1頭で積算している。

Q 新地インターのバスストップは30年度で完成するのか。  
A 新地インター地内に連絡道450m、駐車場1.7畝を整備して完成予定である。



▲工事が進むバスストップ

提出された議案

条例

○街路灯及び防犯灯整備基金条例の制定

町内の街路灯及び防犯灯の整備に要する費用の財源を積み立てるため、基金設置に関し新たな条例を設置するもの  
(全員賛成で可決)

○指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の制定

介護保険法の一部改正に伴い、従来、都道府県、指定都市及び中核市の条例で定められていた指定居宅介護支援に関する基準について、平成30年4月1日より、市町村の条例で定めることとされることから、新たに条例を定めるもの  
(全員賛成で可決)

○国民健康保険条例の一部を改正する条例

持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律(平成27年法律第31号)の施行に伴い、町が行う事務や運営に関する協議会など、所要の改正を行うもの  
(全員賛成で可決)

○国民健康保険条例の一部を改正する条例

持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律(平成27年法律第31号)の施行に伴い課税額など所要の改正を行うもの  
(全員賛成で可決)

○介護保険条例の一部を改正する条例

老人福祉計画・第7期介護保険事業計画の策定に伴い、平成30年度から平成32年度の各年度における保険料の額を定めるため、所要の改正を行うもの  
(全員賛成で可決)

○東日本大震災等による被災者に対する国民健康保険税及び介護保険料の減免に関する条例の一部を改正する条例

原子力災害対策特別措置法(平成11年度法律第156号)による避難等をした世帯に係る国民健康保険税及び介護保険料の減免の期間を平成30年度まで延長を行うため、所要の改正を行うもの  
(全員賛成で可決)

○後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例

国民健康保険法(昭和33年法律第192号)の住所地特例の適用を受けて被保険者とされている者が、後期高齢者医療制度に加入した場合には、住所地特例の適用を引き継ぎ、保険料を徴収すべき被保険者とするなど、所要の改正を行うもの  
(全員賛成で可決)

○道路占用料徴収条例の一部を改正する条例

道路法施行令の一部改正に伴い電柱等の道路占用料の額を改定する等のため、所要の改正を行うもの  
(全員賛成で可決)

指定管理

○公の施設の指定管理者の指定

水産業共同利用施設(荷捌き施設・製氷施設)の設置に伴い、施設の適正な維持管理・運営を行う指定管理者として相馬双葉漁業協同組合を指定  
(全員賛成で可決)

町道

○町道路線の変更

県道相馬亘理線の改変に伴い中里磯山線・作田埴浜線・車田埴浜線の終点を変更するもの  
(全員賛成で可決)

○町道路線の廃止

埴浜地区防災緑地事業に伴い、埴浜地区の町道8路線を廃止  
(全員賛成で可決)



▲荷捌き施設・製氷施設落成式

契約

○農業用施設災害復旧事業

北向浜田地区他7地区災害復旧工事請負契約変更  
復旧面積や堆積物の撤去処分などの設計内容変更に伴い、請負金額を7億4236万2840円増の19億3360万2840円に変更し、大日本土木株式会社東北支店 支店長 内田 昭と請負変更契約を締結するもの  
(全員賛成で可決)

○農業用施設災害復旧事業

埴川第2地区水路災害復旧工事請負変更契約  
堆積物の撤去処分など設計内容変更に伴い、請負金額を1965万4920円増の1億5627万4920円に変更し、大日本土木株式会社東北支店 支店長 内田 昭と請負変更契約を締結するもの  
(全員賛成で可決)

○釣師防災緑地整備工事(その7) 請負契約

指名競争入札により東北建設株式会社 代表取締役 太田由美子と2億8296万円で請負契約を締結するもの  
工事概要・パークセンター(管理棟)・トイレ(3棟)・電気設備・水道設備等  
(全員賛成で可決)

○交流センター新築工事請負契約

指名競争入札により、佐藤・伊藤特定建設工事共同企業体代表者佐藤工業株式会社相及支店支店長 齋藤良則と14億940万円で、請負契約を締結するもの  
(全員賛成で可決)

主な質疑

問 新地駅前整備される交流センターと、既存の農村環境改善センターのすみ分けをどうするのか。また交流センターの管理運営と利用料金をどのようにするのか。

回答

すみ分けについては、町文化協会の各団体でも、出来る演舞と出来ない演舞があるので、そういったところすみ分けを行いたい。管理や利用料金については、今後条例を定めて行くので、内容についてはその際に示して行きたい。

固定資産評価審査委員会委員に

伏見春雄さん(新任)



伏見 春雄氏  
(上ノ町地区, 67歳)

前任者が平成30年3月31日で任期満了になることから新たに推薦され、全員賛成で同意した。  
任期・平成30年4月1日から3年間。



▲交流センターイメージ図

# 補正予算

## 平成29年度一般会計

### 80億8906万円に

一般会計は平成29年度の整理予算となり、歳入歳出それぞれ35億7150万円を減額し、歳入歳出総額が80億8906万4千円となった

#### 主な質疑

**問** 来年度の一般会計当初予算と繰越明許費を合わせると、144億円となる。30年度で事業執行が出来る

**回答** のか。全職員、関係機関と力を合わせ事業執行して行きたい。

**問** 新地駅周辺にホテル等が整備されるが、町内既存の宿泊施設もある。駅周辺だけでなく、全体を考えた町づくりが必要ではないか。

**回答** 今後、新たな町づくりを進めて行き、宿泊客も増えて行くと思われるので、既存の2軒だけでは足りないと思われる。既存の2軒にも、それぞれの特徴を生かしていただき、町全体で活性化しないといけない。

**問** 事故繰越しによるスポーツ施設(フットサル場)であるが、30年度中に完成できるのか。

**回答** 新年度早々に発注をかけた。工期としては5、6カ月を見込んでいます。

**問** 旧駒ヶ嶺公民館事務室と、体育館解体後の跡地利用をどの様に考えているのか。

**回答** 地域の方の意見も踏まえ検討して行く。

## 平成29年度各会計補正予算

会計別	歳入歳出予算現額 (3月議会補正額)	議決の内容
一般会計(第8号)	80億8906万4千円 (35億7150万円を減額補正)	全員賛成により可決
国民健康保険特別会計(第5号)	12億4026万3千円 (4158万1千円を減額補正)	全員賛成により可決
介護保険特別会計(第3号)	9億1415万円 (155万4千円を減額補正)	全員賛成により可決
後期高齢者医療特別会計(第3号)	1億6474万1千円 (600万円を追加補正)	全員賛成により可決

#### 繰越明許の主な内容

事業名	金額 (単位:千円)
新地町IRU支障移転工事	4,367
スポーツ施設整備事業	58,039
ふくしま森林再生事業	82,120
担い手確保・経営強化支援事業	30,000
社会資本整備総合交付金(橋梁修繕)事業	8,150
社会資本整備総合交付金(道路)事業	41,000
新地町中島地区集会所実施設計業務	9,309
新地駅周辺市街地復興整備工事(その5)	215,703
新地駅周辺市街地復興整備工事(その6)	43,201
新地駅周辺市街地復興整備工事(その7)	56,000
区画整理基準点用地測量業務	10,584
立地適正化計画策定業務	3,200
防災沿岸監視カメラシステム整備事業	30,000
公民館体育館建設事業	16,319
公民館体育館解体事業	42,000
農業用施設災害復旧事業 補助分(過年)	20,000
農業施設災害復旧事業	68,190
林業施設災害復旧事業	3,500

※繰越明許費とは、何らかの事情でその年度内に支出を終了することができない経費について、議会の議決を経て、特別に、翌年度1年間に限り繰越して使用することができるものをいう

# 臨時議会

## 条例

○水産業共同利用施設設置  
条例の一部を改正する  
条例

水産業共同利用施設の名  
称及び位置は、次の通りと  
する

名称…新地町荷捌き施設・  
製水施設

位置…新地町谷地小屋字浜  
畑76番地

名称…釣師漁具倉庫

位置…新地町谷地小屋字浜  
畑73番地  
(全員賛成で可決)

## 契約

○釣師浜漁港荷捌き施設建  
設工事請負変更契約  
給排水設備等の追加変更  
等を行うにあたり、工事請負

# 条例・契約など4件を可決

平成30年第1回議会臨時会は、2月6日に開催され、町長から提案された議案4件を慎重に審議し原案の通り可決した

額を108万2160円増  
の7億1485万4160  
円で、東北建設株式会社  
代表取締役 太田由美子と  
請負変更契約を締結するも  
の  
(全員賛成で可決)

○駒ヶ嶺排水路整備工事請  
負変更契約

堤防兼用水路の埋め戻  
しを良質土に変更するに  
あたり、工事請負金額を  
865万9440円増の  
2億2573万9440円  
で新和工業株式会社代表取  
締役 荒 純一と請負変更  
契約を締結するもの  
(全員賛成で可決)

## 平成29年度一般会計補正予算(第7号)

歳入歳出3300万円を追加

歳入：農林水産業県補助金 3300万円

歳出：担い手確保・経営強化支援事業補助金 3000万円

経営体育成支援事業補助金 300万円

(全員賛成で可決)



## 陳情・要望等(3月定例会)

議会では、地域住民より直接の声となる、陳情、請願、意見等を受付けています。今定例会では、下記の陳情1件を受付しました。

	要 望	提 出 者	審査結果
陳 情	◇待機児童解消・保育所配置基準の見直しと処遇改善を求める意見書の提出を求める陳情	福島県保育連合会 代表 大宮 勇雄	議員に印刷して配布
	◇陳情の趣旨 国に対して「待機児童解消・保育所配置基準の見直しと処遇改善のための財源措置を求める意見書」を提出してください。		

ただ  
ここを質す!

# 一般質問

# 町政を問う

今期定例会の一般質問は、3月14日・15日の2日間行いました。

議員6名からは16件の通告があり、交流人口拡大策などについて質しました。

各議員からの質問内容は、左記のとおりです。

以下、主な質問と答弁を、登壇した順にお知らせします。

## 6名の議員が質問

(通告順)

### 寺島浩文議員 P11

- 1 交流人口拡大策について
- 2 雇用拡大策について

### 吉田博議員 P12

- 1 橋梁・道路に関することについて
- 2 河川堤防への避難所表示について
- 3 小規模農業の維持施策について
- 4 しんちゃんGOの運行見直しについて
- 5 鹿狼山駐車場と地場産品販売所の整備について

### 齋藤充明議員 P13

- 1 復興事業の推進と健全財政化の取り組みについて
- 2 公共施設等の維持管理運営について

### 八巻秀行議員 P14

- 1 子育て支援の町づくりについて
- 2 JR新地駅前の泉源と用地貸与の基本的な考え方について
- 3 企業誘致の促進について

### 三宅信幸議員 P15

- 1 磯山展望公園と埴浜防災緑地工事の進捗は
- 2 農地災害復旧工事の進捗と農地中間管理機構の活用は

### 井上和文議員 P16

- 1 人材確保と育成について
- 2 にぎわいづくりについて

#### 一般質問とは

一般質問は、町の行政全般に関し、執行者所見や疑義について質問できる。質問する議員も受ける執行部も、十分な時間が必要なことから、事前に質問内容を通告する。

質問時間は、1人40分以内で完了すること。執行部の答弁時間の制限時間は設けていない。

なお、当議会では平成28年12月議会から試行的に、一問一答方式を導入し、時間内であれば何度でも再質問ができることとしている。

## 交流人口拡大策は



寺島浩文 議員

### 町長 イベントの開催や情報発信力を強化

**議員** 復興事業により新地駅周辺や沿岸部に、様々な施設が整備されるが、新地町の人口8,200人ではこれらの施設の利用者を満たすことは出来ない。  
当然、町外から訪れる方「交流人口」を増やさなくては、民間施設の経営が厳しくなれば、それらの施設にエネルギーを供給する、町と民間企業で立ち上げた「新地スマートエナジー」の経営にも、大きな影響を与える。  
どのようにして交流人口の拡大を図るのか、戦略を伺う。

**町長** 新たに整備される新地駅周辺施設や各防災緑地は、交流や賑わいを生み出す施設であり、それぞれの施設の特徴を生かし、官民協働によるイベントの開催や、情報発信力の強化により、施設利用を交流人口の拡大につなげたい。



#### 情報発信に「地域おこし協力隊」の活用を

#### 企画振興課長

#### SNSを活用したい

#### 議員

以前の一般質問でも申し上げたように、インターネットを活用した情報発信は重要である。しかし、現在の町のホームページではまだまだインパクトが弱いと感じる。また、以前に提案したSNSの活用については、「有効なのはわかっているけど、今後活用を検討して行く」という事だだったが、未だに開設されていない。

#### 地場産業育成による雇用拡大を

#### 企画振興課長

#### 学生へのPRを行う

そこで、30年度事業で設置される「地域おこし協力隊設置事業」で、インターネットに長けた方を採用し、徹底的に町の魅力を発信してもらおうべきではないか。  
**企画振興課長** SNSを活用した情報発信は有効だと考えており、現在企画振興課内でも活用を協議している。また、観光協会ですらでSNSを立ち上げ、タイムリーな情報発信を行っている。来年度になるが、地域おこし協力隊の中でも、今の町の取組や様々な情報発信を、SNSを活用して行っていきたい。



吉田 博 議員

# 道路の安全対策は迅速に

## 町長 交通事故防止に努める

**議員** 震災後、新たに建設された大富希望の橋が完成後1年もたないうちに、歩道と車道の路面に亀裂が生じた。

昨年6月にも速やかな処置を訴えたが、未だに補修されていない。この修復はいつ行うのか、費用は誰が負担するのか。

**町長** 本路線は平成28年10月に竣工し、供用開始したが、その後一部区間において地盤沈下が見られ、舗装に亀裂や窪みが発生している。町単独の予算で修繕したい。

**議員** 新地駅から6号国道に通ずる県道金山新地停車場線に、街灯が無く夜の歩行に危険だ。照明灯などの設置計画はあるのか。

**町長** 県に要望して、国道6号及び町道の交差点に道路灯を設置したが、歩行者の安全を確保するため、街路灯の整備について今後検討する。

**議員** 新地高校北側の町道小川赤柴線の拡幅、及び渡



▲全線の歩道整備が望まれる富倉赤柴線

辺病院北側の富倉赤柴線の歩道設置が必要では。

**町長** 町道小川赤柴線については、これまで既設の側溝に蓋がけをしたり、側溝の無い箇所新たに側溝を整備したりした。

富倉赤柴線は、総合公園から西へ3000m区間で、今年度の歩道工事が完成する、今後も、継続して事業に取り組む。

**議員** 昨年10月の大雨で、町内河川が氾濫寸前になった。洪水になったらと、不安であり、避難所の表示が必要ではないか。

**町長** 河川敷地内への工作物の設置は、堤防機能に損傷を与えかねないとして、設置は難しいが、避難場所など事前に確認できる周知方法を検討する。

**議員** 後継者がいない、あるいは耕作面積が少ない、農道が狭いなどの理由で、多くの小規模農家が農業を維持できない状況にある。町独自の救済策を構築すべきではないか。

**町長** 54割の農地集積率であり、集積は進んでいると考えるが、借り手が少ない状況なので、農地中間管理機構と連携し、経営基盤強化支援や規模拡大等を行い

## 多様な町民の要望に町の対応は

### 町長 関係部署で検討する

農地集積を進めたい。

**議員** しんちゃんGOとして、タクシー会社から2台を借り上げ運行しているが、本来のタクシーが夜間・土日に運行していないようだ。町民が求めているタクシー運行が妨げられているので、しんちゃんGOの運行見直しをすべきではないか。

**町長** しんちゃんGOの利用者は、減少傾向にあり、今後の駅周辺施設や鉄道利用者者を考慮した運行見直しは必要であり、夜間、休日のタクシー運行は事業者に要請したい。

**議員** 町内で交流人口の多い鹿狼山麓に、駐車場と地場産品の販売所を造るべきではないか。

**町長** 駐車場整備については、地形的な事や民有地等の課題があり進んでいない。地場産品販売所については、今後の定例化に向けて検討したい。



齋藤 充明 議員

# 復興交付金最大限に活用を

## 町長 第2次復興計画を基本に推進

**議員** 東日本大震災から7年が経過したが、復興の加速化や商業施設など最低限必要な生活インフラの誘致と高齢者や来訪者の移動手段の確保など、多くの課題が山積している。

平成30年度一般会計予算は135億円と前年度と比較し26億874万円の増となったが、当町に配分された復興交付金の総額360億8400万円を最大限に活用し復興の加速化を進める必要がある。その進捗状況と今後の事業計画を伺う。

**町長** 復興交付金360億8400万円の執行率は82割で、内訳は、基幹事業で311億800万円、効果促進事業で49億7600万

円となっている。そのうち認可額は、基幹事業で99.2割にあたる308億7000万円、効果促進事業で71割にあたる35億4200万円である。今後も、第二次復興計画を基本として事業に取り組んでいく。

**議員** 国では「風評払拭コミニケーション強化戦力」を策定したが、依然として福島に対し厳しい風評が続いている。当町としても風評対応を強化すべきでないか。

**町長** 町では米の全量全袋検査や自家消費食品検査を実施し、検査結果をHPや広報等で周知している。また、「ふくしまの恵みPR」支援事業を活用し、風評払拭、消費拡大に取り組んできた。今後も事業を継続し、安全性を発信し、風評払拭、販売促進に努めていく。

**議員** 心の復興は長い年月を要する。被災者に寄り添いながら継続的に心の復興を進めていく必要がある。

**町長** 町では、被災者支援総合交付金を活用し、住宅



▲心の復興事業による子育て支援

再建支援事業、コミュニティ形成支援事業、心の復興事業、生活支援事業4事業に取り組んできた。被災者の再建も進み、仮設住宅が本年3月で廃止されることから、被災者生活再建支援事業の支援員による相談業務等については少量となるが、他の事業は継続事業として対応していく。

**復興以外で町づくりに使える予算は**

**町長** 約8億円

**議員** 平成30年度一般会計予算のうち復興関連予算を除く通常ベースでの予算額は約46億6800万円である。そのうち、実質町づくりに使える予算はどの程度なのか。

**町長** 通常予算に対するまちづくり予算は、義務的経費である人件費、扶助費、公債費や、特別会計への繰出金、一部事務組合負担金や債務負担による経費・国県補助事業対象額を差し引けば、約8億円が建設事業や教育・福祉などの事業予算となる。

**議員** 今後の税収の推移をどう想定しているのか。

**町長** 税収の推移は、給与所得や法人所得の伸びを期待しているが、固定資産税では、4号ふ頭のLNG基地など東日本大震災復興特別区域法の適用を受けている企業が、5年間の事業税と固定資産税の課税免除から、当面は現状推移と想定している。



八巻秀行 議員

# 待機児童を発生させない 取り組みを

## 町長 来年度正保育士の採用をする

**議員** 待機児童対策について、私は平成28年9月一般質問で、「各保育所間の連携強化や保育所内の機能的なクラス編成、臨時保育士の確保等で希望に添えるよう努める」との回答を頂いていたが、平成30年度入所児の応募状況は、新地保育所8名、駒ヶ嶺保育所7名の計15名の待機児童の発生が予想される。臨時保育士募集にあつても応募がなく、新年度当初の臨時保育士や補助員の協力を頂き、働き方を少し変えて頂き、今後とも待機児童を発生させない取り組みを進めて、特化した子育て支援に努めて頂きたい。

**町長** 核家族化や共働き世帯の増加等により、3歳未満児童が増加している。平成30年度の臨時保育士募集にあたり賃金改定の処遇改善を行い、保育士の確保に努めている。

**議員** 臨時保育士や補助員の協力を頂き、少し働き方を変えて頂くことで当分の

間の保育行政を進め、待機児童を発生させない取り組みを進めるしかないと思う。新年度の保育士の採用に当たっては、これまで行政改革のもとで長い期間、職員数の削減が行われ、不足分を臨時採用で賄ってきたが、人口増加を目指す本町なので抜本的な見直しで、正職員の退職補充だけでなく、児童数に即した正職員の採用を図ることが大事ではないか。

**副町長** 新年度において、保育士1名、補助員1名の応募があり、近日中に面接する。これまで正職員の退職補充だけをしてきたが、平成30年度の退職はないが正職員の採用を考える。

### 新たな工業団地 造成を

**町長** 石油資源開発とも連携  
**議員** LNG関連企業の誘致促進と、新たな工業団地造成について、平成26年一般質問で伺ったが、回答は

「運転開始される時期を見据えて石油資源開発、県町の推進室との連携を取りながら、あらゆる角度から検討する」としていた。平成30年3月でLNGパイプラインが運転開始された。新たな工業用地を確保して、冷蔵倉庫、産業用ガス産業、省エネデータセンター、植物工場、LNGガス自動車産業など多くのLNG関連企業の誘致促進を図らなければならない。

**町長** 現在、福島ガス発電機が平成32年春の完成に向けて進捗しているが、他の誘致は立地条件を整理しながら石油資源開発とも連携して誘致活動に取り組んで行く。

**議員** 町の国土利用計画でも、平成32年度までに新たな工業団地造成団地を整備



▲LNG基地整備状況

するとしている。パイプライン敷設周辺に造成をし、多くの関連企業への売り込みを進めることが必要だ。それには今泉地区、大戸浜地区の山林などへの新たな工業用地を確保すべきだ。

**町長** LNG関連企業の誘致は、石油資源開発と連携して、今後とも進めて行く。

# 磯山展望公園の手洗い場と トイレの設置は

## 町長 手洗い場は県が設置した



三宅信幸 議員

**議員** 磯山展望公園は、宮城県の県道相馬亘理線から新地町に入る北の玄関口になる。高台からの眺めは、西に鹿狼山が見え、東には太平洋の青い海も広がり、素晴らしいところである。来場者が休める東屋も完成した。広場の芝草も春になれば、緑の絨毯で子どもたちが遊ぶ姿が目につく。公園から砂浜に降りられる階段もあり、砂浜を散策も出来、夏には浜辺から釣りも楽しめる。

福田小学校の子どもたちが、公園の一部に子どもたちと同じ人数の73本のみかんの苗木を植えた。みかんの木が成長し、黄色いみかんの実が付けば、子どもたちの思い出の公園となり、最北のみかん園として、名所になるのではと考えている。

そのような場所には、手洗い場やトイレの設置が必要であると思うが、考えを伺う。

また、公園での事件や事



▲磯山公園にみかんの苗木を植える福田小の子供たち

故防止のために、防犯灯と防犯カメラの設置も必要でないか。

**町長** トイレは設置せず、手洗場は設置済みである。また、現計画ではカメラの計画はないが、照明については県と協議する。

**議員** 公園に繋がる砂浜に、昨年春の大波のため、大きな石が打ち上がった。その石の撤去は。

**町長** 河川の南側は撤去した。北側は砂浜を観察し、追加対策を検討する。

### 農業問題への 対応は

**議員** 県道相馬亘理線の通行はどうなるのか。

**町長** 県境から作田前へは通行できるように、県と協議をする。

**町長** 魅力ある産業にしたい  
**議員** 農業は、町の基幹産業と言われているが、農業者の高齢化が進み、耕作放棄地が拡大しているのが現状である。

農家は後継者がいない、高齢化などから農地はいらないので処分したいなどの声が聞こえてくる。

中間管理機構を通しての仕事は担い手の育成、耕作地の集積・集約などで、今後、農業を基幹産業として続けるためには、中間管理機構の仕事は重要だと思う。

農業は、今までに経験したことのない大きな転換期にきている。この農業問題全ての対応について、どう考えているのか。

**町長** 昔の農家は、土地を増やしてきたが、その土地を受け継ぐことが大変な時代になっている。一次産業の農業は、町としても重要な産業である。

時代と共に変わりつつあるが、国の政策などを見定め、魅力ある産業にしたい。農業は大切であり、やりがい、生きがいの持てる産業にして行きたい。



井上和文 議員

# 待機者を出さない 保育士の確保を

## 町長 保育士養成校の実習生を受け 入れ確保につなげる。

議員 働き方改革等が議論されているが、本来の改革は「働きすぎ」と言われている労働環境の改善が、何よりも優先されなければならぬ。地方自治法にも規定しているように住民の健康、福祉を保持するために、期待にこたえる人材の確保が求められる。

保育所児童数は、平成24(30)年まで見ると255人から306人と増え、正保育士数は23人から22人(育児休業込)と減っている。一方、臨時保育士と補助員は合わせて21人から29人と増えている。

今年度、保育士がいなくて15人の待機者が出るというところだが、退職者分しか補充してこなかったツケが出ているのではないかと。常に、ゆとりをもった体制を維持しなければならぬ。嘱託職員を新たに採用することだが、臨時職員も含め処遇改善を図るべきだ。また、特別養護老人ホームの待機者は250人(町



▲元気に遊ぶ子どもたち

町づくりは人づくりであり、技術者の確保や姉妹都市、派遣市町村との人事交流、人材育成が課題だ。

町長 県内外の保育士養成校へ直接募集を行い、新卒者の確保を含め、毎年保育実習生を受け入れ、確保につなげていく。

副町長 ここ数年急激に子供の入所希望が増え、特に0歳、1、2歳児が増えている。今後の推移を見ながら、正職員の採用増を検討する。

総務課長 保育士の日々雇用の賃金は8000円(年間8万円の加給金も新設)、嘱託職員は月16万8500円だが、役場退職者の再任用は約20万円であり、総務省の法律改正のマニュアルに従いボーナス、通勤手当等、町として条例を制定し処遇改善に努めていく。

健康福祉課長 介護職員の

処遇加算は、1万2000円から3万7000円まであり、4つの改善項目が条件で、事業所が計画を立て、職員への説明、町、県に報告することになっている。

介護保険の財源については、65歳以上23割、40歳27割、残5割が公費だが、処遇改善を行うにあたって利用者の負担増にならないよう、国庫負担率の引き上げを県と連携して取り組む。

副町長 残業は、減ってきているが、職員の健康、働きやすい職場、目標をたてて成果を得る、生きがいのある職場にしたい。

総務課長 人事交流は大きなメリットがあるが(職員の視野、考え方、技術面等)、実施に当たっては、受け入れ態勢や身分保障もあるの、今後の課題として調整させてもらいたい。

# 委員会 レポート

## 総務文教常任委員会 いじめ防止と学力向上を



1月18日、いじめ対策と学力向上について調査した。

児童等の尊厳を維持、いじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進することを目的に、3つの条例が12月議会に於いて可決成立した。当町におけるいじめの状況は、冷やかさし、軽くぶつかる、仲間はずれ等で、認知件数は平成27年度5件、平成28年度33件で、

平成29年度は7件の報告を受けており、同年7月から事案発生・対応報告書やアンケート調査を実施している。いじめ防止基本方針及びいじめの情報共有の手順等により、実りある成果を期待する。

当町における学力向上の取組みは、年3回の学力向上対策協議会等において検討され、全国に先駆けICT教育を進めている。「夢を育み可能性を伸ばす」教育を目標に、ICTを活用して学びの質を高め、21世紀を生き抜く力を育てる授業を進めている。

▲いじめと学力向上について調査  
昨年度の全国学力調査では小学校で10.8割、中学校は4.6割の上昇がみられ、その成果が表れている。ICT教育を学力向上につなげてほしい。



▲新地駅周辺 (撮影：国立環境研究所)

## 新たな発想で検証と推進を

2月8日、平成30年度予算編成について調査した。

「総合戦略」の3年目を迎え、事業の検証と推進を図らなければならない。平成30年度の一般会計予算規模は、約135億円程度で対前年度比23.1割増の見込みであり、特別会計予算を加えた総予算は、158億8千万円程度で対前年度比16.4割増の見込みとなる。多くが復興予算であるので、復興事業の更なる推進が望まれるが、本来の町づくりや地域づくりを見据えた事業推進にも取り組まなければならない。また、新地駅周辺復興整備事業、交流センター、複合商業施設、防災緑地整備事業等の完了に伴い、施設の維持管理のための新たな財政計画を平成30年度前半にも樹立する必要がある。

平成30年度予算編成について東日本大震災から7年が経過し、復興事業を確実に進め、新たな発想を持ってシフトアップし、「総合計画後期基本計画」や「まち・ひと・し

# 委員会 レポート

## 産業厚生常任委員会 安心安全な道路整備を

1月24日、安心安全な道路整備について調査した。

町道、県道などの現地を確認後、議論をした。駒ヶ嶺新地線(旧国道)をはじめ、スクールゾーンにつながる道路は、交通量の増加もあり、子どもの通学路など大変危険な状況が見られる。特に雪が降ってアイスバーンになり、車道を歩かなければならない事もあり、完全安心を確保する上でも、実施計画を持って歩道の整備を急がれたい。新地駅前に通ずる国道6号から駅前交差点に1基、新しくできた谷地田線の交差点に2基、照明が改善されているが、まだ暗い状況が改善されていない。学生も通学する事



▲道路整備状況を調査

から防犯灯、街路灯など急ぎ対応されたい。工事関連車両が通り、道路が悪くなっている部分は早急な対応を図るとともに、国道・県道の維持管理、草刈などは国・県と協議をし、万全

を期されたい。また、富倉の国道6号の法面崩れは3年近く放置されており、これ以上進めば防集団地の建物にも影響が及ぶ恐れもあるため、早急な課題解決を図られたい。

## 移住・定住策で 活力ある町に

2月16日、移住・定住を促進するための住宅政策について調査した。

町は移住・定住を促進するための住宅政策として、小川定住促進住宅として48戸、福田に続き新たに新地駅前の若者定住促進住宅が2棟8戸新設され、3月末の供用開始を予定している。人口増につなげてい



▲整備された新地駅前若者定住促進住宅

るかが課題であり、外からの方を受け入れる雰囲気づくりや、防災の観点からも次の10年20年を見据えた地域力を、地区長・区長も含め全庁をあげて議論し、醸成されたい。

移住・定住を進めるために、約300を超す町営住宅が整備されている。現状の空室の解消や町内空き家の有効活用の検討、更には商業、福祉、教育等について各課連携し、現状の分析や情報発信をするなど、移住・定住を進めながら活力あるまちづくりに取り組ま



## 議会を傍聴して

議会を傍聴して

思う事

荒 拓見(禾崎地区)

「小規模農業の維持施策」の一般質問がある事を知り、農業委員会でも、衰退する農業の活性化について議論している事から、議会を傍聴した。

勢、環境の変化、世論の変わりにより、農政も変化した。インフラ整備、進歩した農業機械の導入や、生活水準も上がり、利益が伴わなくなつた。世論の乖離、農業への投資のハードルも高く、元来、小規模農家であった後継者が、生活の為に他産業へ流れ兼業農家が増え、就農人口も減少に向かった。昨今は、経営規模拡大を推奨した政策に赴き置き、小規模農家は置いてきぼりになりつつある。

町の総農家数643戸、経営母体数398戸、自給農家数252戸、認定農家数83戸、農業就業人口は529人もいる。町でもマスタープランを作成、各関係機関のご尽力もあり、微増だが農業経営母体は増えている。農業を営む人、担い手が明るい希望を持って、シニア世代、女性が活躍でき、生きがいを感じる施策で、後押しが望まれる。怠ると、行政サービスの低下、小規模零細弱者農家が増え、負のスパイラルになりかねない。

町、活気に満ちた町、健康で暮らせる町、魅力ある町にする為、日夜奮闘なされている町、議会、各関係機関の皆様には敬意を表したいと思う。問題提起に終わらず、本質を追究、清廉性を保ち、知見を持って、邁進していただける事を願う。

### エネルギーシステム整備工事安全祈願祭



2月9日、スマートコミュニティ事業の核となるエネルギーセンター等の建設のため、新地駅周辺エネルギーシステム整備工事の安全祈願祭が行われた。

### 東日本大震災新地町追悼式



3月11日に東日本大震災新地町追悼式が農村環境改善センターで行われた。

### 荷捌き施設・製氷施設落成式



釣師浜漁港に荷捌き施設・製氷施設が完成し3月26日に落成式が行われた。

## 議会を傍聴しませんか

★次回の定例会は、6月初旬開会の予定です。

議会は、所定の用紙に必要事項を記入して頂くことにより、どなたでも自由に傍聴することができます。

詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。

議会事務局 (新地町役場3階) ☎62-2190 (直通)

# ようこそ新地町へ

## 海と山にあじがれて

大戸浜地区にお住いの中村雄志さんに、新地町の良いところ、望むことなど、お話しを伺いました。

### 新地町に住住しようと思ったきっかけ

定年後は海と山がある、田舎で暮らしたいと思っていました。

ネットで調べて新地町のことは大体把握していましたが、登山や山菜採りが好きな私には近くにそびえる鹿狼山は魅力的で移住を決めた理由の一つでもありません。

### 町のこんなところが良い

移住して直ぐに感じたことは、毎朝犬の散歩をしている時に、逢えば必ずと言って良いほどおはようございますと挨拶されることで親しみを感じました。また、健康維持のため週3回の鹿狼登山のおかげで全く知り合いも居なかった



### 町へ望むこと

町なのに、気さくな人たちとの交流も増えました。

少年高齡化が進み我が家の周囲も高齡者ばかりです。数年後には空き家が増えると思うので他県や町外からの移住者を募集したり、娯楽施設やスポーツジムなどを造り若者同士の交流の場が必要だと思います。

また、子育てや教育の面でも、もっと優遇制度を充実させ、子供を安心して育てられる環境が必要だと思います。新地町の良さをホームページ等で紹介するだけでは観光客は増えないと思います。

もっと具体的に登山や体験ツアーそして婚活ツアー、また、夏休みを利用した海や山でのキャンプファイヤーやスポーツ合宿、みちのく潮風トレイルなど組み合わせた音楽祭などのイベントを企画して町外からの観光客を呼び込むように官民一体で取り組んで欲しいです。

鹿狼山とその周辺に山桜や紅葉、カエデなど植樹し、やすらぎの森などを再整備すれば、春は花見、夏は森林浴、秋は紅葉狩りと、その季節を楽しめるようになります、PRしなくても観光客は自然に増えるのではないかと思います。

## 編集後記

旧友がみやげ店を営む山形県肘折温泉は有名な豪雪地帯。今年は観測史上初の4月45℃を記録したとか、彼は3月が一番好きだと云う。

暖かい日差しと共に山菜が豊富になる季節が目の前によって来るから。

吉幾三は、山の雪解け花咲く頃にやけに母ちゃんそわそわするね、大きな声でじよんがらを唄いながら汽車から降りる出稼ぎ帰りの親父を詩つ。

3月は卒業式・離任式など、別れの季節。

4月は入学式・入社式など出会と希望の季節。

本誌も発行から157号を数える。読者に待ち遠しいと思ってもらえるような、そんな紙面づくりに努めたい。

### 編集委員

- 委員長 寺島 浩文
- 副委員長 齋藤 充明
- 委員 八巻 秀行
- 委員 三宅 信幸
- 委員 吉田 博

(吉田 博)